

令和 元年 6 月 25 日現在

機関番号：32644

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）

研究期間：2017～2018

課題番号：16KK0135

研究課題名（和文）スペイン北東部における宗教勢力と中世都市形成の関係についての建築史的研究（国際共同研究強化）

研究課題名（英文）Correlation between the Interests of Religious Forces and the Formation of Medieval Cities in the North-East of the Iberian Peninsula: A Historical and Architectural Study(Fostering Joint International Research)

研究代表者

伊藤 喜彦 (Ito, Yoshihiko)

東海大学・工学部・准教授

研究者番号：40727187

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 6,600,000円

渡航期間： 6ヶ月

研究成果の概要（和文）：現在共同研究者であるヘラルド・ボト博士との共著論文を準備中である。ジローナ旧市街の形成において、サン・フェリウ聖堂とサンタ・マリア大聖堂の両聖堂の建設活動そのものや、建設を組織する司教座や参事会が重要な役割を果たしていたことが明らかになりつつある。3Dスキャンニングによって得られたデータなどを活用しながら、サン・フェリウ聖堂の遺構そのものの建設フェーズをまず明らかにし、続いてそうした連続的な建設過程がジローナの都市空間の変容と、具体的にどのような関わりを持っていたのかを解明したい。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで宗教建築遺産は、自立した芸術作品や技術的成果として、あるいは他の場所にある関連する建築との芸術的・技術的な関連性によって語られることが多かった。しかし、都市内に立地する建築というものは、空間的にも時間的にも都市の文脈に強く規定され、長期に渡ってときにゆっくりと、ときに激しく形を変えながら建設・増改築されてきた。本研究は、こうした歴史的都市の都市組織の一部として宗教建築を再評価する点に学術的な意義があると考えられる。

研究成果の概要（英文）：Dr. Gerardo Boto and I are preparing a joint paper based on this research project. In this paper, we will discuss how the construction activities of the church of Sant Feliu and the cathedral of Santa Maria provided a new spatial organization to the city of Girona. The importance of the episcopal see and the cathedral chapter as urban developers will also be examined. First, utilizing the information obtained by 3D-scanning and other measurement, we would like to show detailed construction phases of the church of Sant Feliu, so that these continuous process can be associated with the transformation of Girona's urbanism.

研究分野：西洋建築史

キーワード：ジローナ カタルーニャ ロマネスク ゴシック 中世キリスト教建築 中世都市 スペイン ヨーロッパ

様式 F-19-2

1. 研究開始当初の背景

本研究は、イベリア半島中世都市が成立・発展・変容していく複雑な過程を、司教座や修道院といった宗教勢力の介入という観点から分析し、その様相を明らかにする基課題「イベリア半島中世都市の形成と整備に宗教勢力が及ぼした影響についての建築史的研究」（若手研究（B））を進展させるものである。基課題を実施する中で、より具体的で実証的な事例研究が必要であることが明らかとなった。特定の都市を研究対象として絞り込むことで、文献資料へのアクセスを確保し、現地研究者と協働することが可能であると考えた。共同研究者の協力を得られるかどうかも踏まえていくつかの候補地を選定し、その中からスペイン・カタルーニャ州ジローナに焦点を絞った。

2. 研究の目的

本研究の目的としては、当初、カタルーニャの歴史都市ジローナを中心に、大聖堂の建設や聖職者による住区開発といった行為を通して、宗教勢力が都市整備に果たした役割を解明することとした。ジローナという比較的小規模な司教座都市の形成過程を解明することで、スペイン中世・近世都市の形成過程について新たな視座を提供し、また同時にわが国におけるイベリア半島都市研究を大きく発展させることが見込まれると考えたからである。

実際に現地での共同研究を始めてから、現在のサンタ・マリア大聖堂を扱うより、それ以前に司教座が置かれたと推定され、サンタ・マリア大聖堂を補完する役割を果たしたジローナ旧市街北部に位置するサン・フェリウ聖堂（Sant Feliu）、およびその周辺地区のほうが、より今回の研究対象に相応しいと考えられるようになった。そこで、サン・フェリウ聖堂の1285年以前の建築のあり方を解明することを、より具体的な研究対象として定めた（図1）。

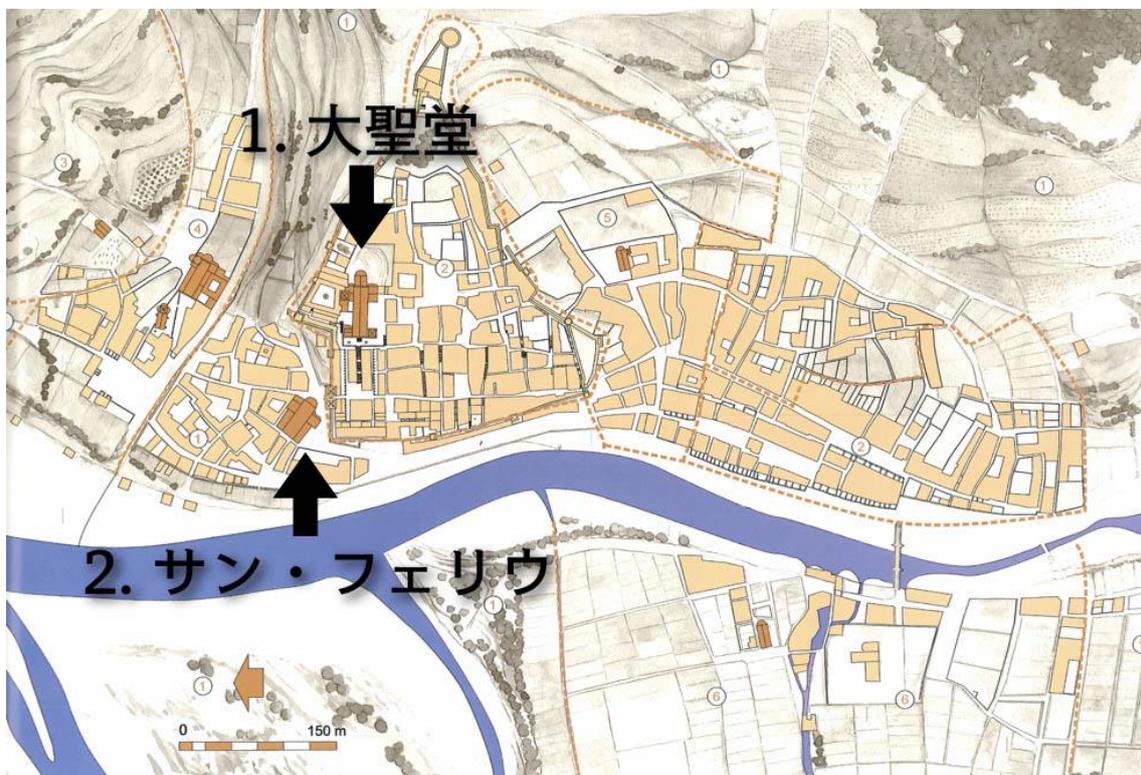


図1 13世紀中葉のジローナ（推定復元都市図）（Josep Canal, Eduard Canal, Josep Maria Nolla & Jordi Sagrera, *Atles d'Història Urbana de Girona. Segles VI aC - XVI*, Ajuntament de Girona, ICC, 2010 に筆者加筆）

3. 研究の方法

研究方法としては、考古学・都市史・建築史・美術史といったさまざまな学問分野の既往研究を渉猟し、(1) ジローナにおけるロマネスク建築およびゴシック建築の特質 (2) ジローナ司教座や大聖堂参事会の都市形成との関連 (3) ジローナ旧市街についての考古学的知見を収集し、総合的に検証した。また、他の大聖堂と大聖堂都市との比較検討を行い、研究の現状と問題点について検討した。さらに、サンタ・マリア大聖堂およびサン・フェリウ聖堂、また周辺市街地での複数回に亘る実地調査を行い、建築的特徴について記録を行った。最後に、共同研究者のボト教授が2018年末にサン・フェリウ聖堂内部の3Dスキャンを実施し、それをもとに詳細な図面を作成して建設時期や増改築のあり方について分析した。

4. 研究成果

現在までの成果の概要としては下記学会発表①にて提示する予定である。また、詳細な研究成果については現在国際学術雑誌への投稿を準備中である。

これまで、各モニュメントの建築と、都市発展の物理的な状況と過程は別々に扱われてくることが多かったが、サンタ・マリア大聖堂、サン・フェリウ聖堂、そしてジローナ旧市街全体のタイムラインと実際の都市空間を総合的に検証することで、中世都市組織の変容と教会堂の関係性、教会堂がどのようなタイミングで、どのような意図をもって増改築され、あるいは元の敷地の周辺市街地を取り込んで新築されるかというプロセスが明らかになりつつある。また、古代末期に建設され、ゴシック様式で一旦の完成を見たサン・フェリウ聖堂の知られざるロマネスク期の建設プロセスについても、3D スキャンデータの解析によって、新たな知見が得られており、この点についてもモノグラフ論文を準備中である。さらに、13世紀末までのジローナのサン・フェリウ聖堂という具体的なケーススタディから得られた知見は、より普遍的な中世都市と宗教建築の関係性について、多くの示唆をもたらしている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者は下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

- ① 伊藤喜彦「大陸を結ぶ、海をつなぐ-海峡都市セウタと中世ジブラルタル海峡」都市史研究 6, 2019年11月 (予定, accepted)

[学会発表] (計 3 件)

- ① 伊藤喜彦「ジローナのサン・フェリウ聖堂の建築的・都市的変容 クレリック・アーバンイズム：イベリア半島中世都市の形成・整備における宗教勢力の役割 (2)」日本建築学会大会, 2019年9月 (予定, accepted).
- ② 伊藤喜彦「ムデハル建築」は存在しない？—キリスト教建築とイスラーム建築との影響関係をめぐって」『ムデハルとは何か？—中世スペインの宗教・文化的多様性をめぐる議論と展望』スペイン史学会大会, 2017年10月.
- ③ 伊藤喜彦「写る建築、移らない建築 10世紀レオン王国におけるコルドバへの眼差し」『レオン—コルドバ：スペイン初期中世の芸術と文化 (セルバンテス文化センター)』スペイン・ラテンアメリカ美術史研究会, セルバンテス文化センター東京, 2017年7月.

[図書] (計 1 件)

伊藤喜彦「コルドバ——中世イスラーム都市の残照とキリスト教文化の遺産」松原康介 (編著) 『地中海を旅する 62 章—歴史と文化の都市探訪』明石書店, 2019, pp.183-7.

[その他]

- ① 伊藤喜彦「聖地サンティアゴ巡礼と建築・都市 (地中海のかがやき)」Jシニアーズアカデミー地中海講座, NHK文化センター青山教室, 2019年5月13日.
- ② 伊藤喜彦「スペイン・サンティアゴ巡礼路の建築と都市空間：ハカからサンティアゴ・デ・コンポステーラまで」ワールド知求アカデミー 地中海学会セミナー, ワールド航空サービス (東京), 2019年2月27日.
- ③ 伊藤喜彦「ジローナ大聖堂 カタルーニャ・ゴシックの至宝 (スペインの大聖堂都市)」朝日カルチャーセンター新宿, 2019年2月18日.
- ④ 伊藤喜彦「コルドバ 大モスクと都市空間 (スペインの大聖堂都市)」朝日カルチャーセンター新宿, 2019年2月4日.
- ⑤ 伊藤喜彦「スペインの中世キリスト教建築を読む 巡礼、レコンキスタ、ムデハル」ワールド知求アカデミー 地中海学会セミナー, ワールド航空サービス (東京), 2017年5月18日.

6. 研究組織

研究協力者

[主たる渡航先の主たる海外共同研究者]

研究協力者氏名：ヘラルド・ボト

ローマ字氏名：Gerardo Boto

所属研究機関名：ジローナ大学歴史学研究所

部局名：文学部歴史美術史学科

職名：教授

[その他の研究協力者]

研究協力者氏名：ジュアン・ムリーナ
ローマ字氏名：Joan Molina
所属研究機関名：ジローナ大学（当時）
部局名：文学部歴史美術史学科
職名：教授

研究協力者氏名：マルク・スレーダ
ローマ字氏名：Marc Sureda
所属研究機関名：ヴィック司教区博物館
部局名：学芸部
職名：キュレーター

研究協力者氏名：ミゲル・アンヘル・チャモロ・トレナード
ローマ字氏名：Miguel Ángel Chamorro Trenado
所属研究機関名：ジローナ大学
部局名：建築学部
職名：講師

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。